ボーリング柱状図

調査名	平成16年度標津断層帯調査業務委託
事業・工事名	平成16年度地震関係基礎調査交付金事業

ボーリングNo. 6

シートNo. 1

ボーリング名	S04-Ka-3	調査位置	標津郡標津町字北川北					北緯	43° 40' 10.3"
発注機関	北海道立地質研究所　地域地質部			調査期間	平成 16年 10月 25日 ～ 16年 10月 29日			東経	144° 57' 34.3"
調査業者名	サンコーコンサルタント株式会社　札幌支店 電話（011-837-5537）	主任技師	田邉　謹也	現場代理人	越谷　賢	コア鑑定者	林 健太郎・越谷 賢	ボーリング責任者	中村　幸彦
孔口標高	155.89m	角度	180° 上 90° 下 0° 0°	方向	北 0° 270° 西 90° 東 180° 南	地盤勾配	水平 0° 鉛直 90° 0°	使用機種	
総掘進長	28.00m					試錐機	利根TDC-1G	ハンマー落下用具	トンビ
						エンジン	ヤンマーNFD-12	ポンプ	

標尺 (m)	標高 (m)	層厚 (m)	深度 (m)	柱状図	土質区分	色調	相対密度	相対稠度	記事	孔内水位(m)／測定月日
	155.38	0.51	0.51		耕作土	黒褐			腐植土。橙色亜円軽石が挟在。	
	155.27	0.11	0.62		軽石	黄褐			腐植土が混在。(Km-1f?)	
	154.99	0.28	0.90		腐植土	黒褐			火山灰質シルトをボール状に含む。凍上による攪乱相？。	
1					軽石	黄灰～灰褐			亜円。径2～10mm。全体に火山礫(径2～3mm)を含む。基底逆級化し、それ以上は正級化する。(Ma-1)	
	153.94	1.05	1.95							
	153.81	0.13	2.08		火山灰質シルト	黄灰			ローム質。	
2										
3										
4										
5										
6										10/25 6.40
7										
8										
9					シルト混じり砂礫	灰褐			礫種、礫径、礫混入率は変化に富む。全体に腐り礫が多い。 基質はローム質粘性土が主体である。 礫種は大礫では安山岩やデイサイトが圧倒的に多い。細礫では白色凝灰岩や古い安山岩が多い。腐り礫の多くは安山岩やデイサイトであるが、閃緑岩や礫岩が稀に含まれる。 礫径は細礫では亜円礫がほとんどである。一方、大礫では亜角礫が目立つ。細礫ではφ3～20 mm 、大礫ではφ10～50 mm が一般的で、それ以上の礫径の礫は短棒状～棒状コアとなっている。 礫の淘汰が不良で、礫混入率には級化等の特徴的な傾向は認められない。 層相から、土石流による扇状地成段丘堆積物相と考えられる。	
10										
11										
12										10/25
13										
14										
15										
16										
17										
18										10/26
19										
20										
	135.25	18.56	20.64							
21	134.88	0.37	21.01		砂礫	黄褐			安山岩・デイサイト・凝灰岩の亜円礫(径10～30mm)を含む。基質は中粒砂。一部シルト薄層が挟在。	
	134.13	0.75	21.76		火山灰質粘土	黄灰～黄橙			葉理(ほぼ水平)が発達。所々細礫混りシルト質砂が挟在する。	
22										
23					火山灰質砂	暗灰～暗褐灰			10～20cm単位で級化する細～粗粒砂。一部粗粒砂に亜円細礫を含む。 22.00～22.18m:火山灰質砂とシルトとの細互層（水平）。 23.51～23.61m:固結細粒砂。	10/27
	132.28	1.85	23.61							
	132.05	0.23	23.84		火山灰質粘土	黄橙			固結度が比較的高い。	
24										
25										
26					安山岩	紫灰			礫と同質の砕屑物からなる。自破砕熔岩相である。礫の大きなものは短棒状～棒状コアとなっており、発泡痕が認められる。礫径の淘汰は認められない。 24.13～24.37 m：細礫混じり粗粒砂（黄灰）を薄層状に挟む。	
27										10/28

標準貫入試験 深度 (m)	10cmごとの打撃回数 0～10	10～20	20～30	打撃回数／貫入量 (cm)	N値 0 10 20 30 40 50 60

原位置試験 深度 (m)	試験名および結果

試料採取 深度 (m)	試料番号	採取方法
1.08	S04-Ka-3-1.08	
1.95		
22.41	S04-Ka-3-22.41	
22.42		

室内試験（　）

掘進月日

27					岩				24.13～24.37 m：細礫混じり粗粒砂（黄灰）を薄層状に挟む。																								10/28
28	127.89	4.16	28.00																														10/29